

安全安心の学校ニュース

●西中学校にニューフェイス登場

3年生に新しく男性の英語の先生が加わりました。お名前は、
桑江 昂輝 先生です。授業は1年生に行くことになり3年生とは授業でのつながりはありませんが、修学旅行をはじめ学年の行事には一緒に加わってくれます。先生とは「先に生まれる」と書きます。この桑江先生まだお若いですが、留学やアルバイトでの経験もあるようです。先に生まれた先生の経験談も、みなさんの学びの一つになるはずです。是非聞かせてもらってくださいね。**(聞く力)**

●部活動の在り方・最終下校時刻に関して

緊急事態宣言が5月末まで延長されました。新型コロナウイルスによる感染拡大の状況で、なかなか通常の生活ができず、学校活動に関して特別な対応が多くなっていることを改めてお詫びします。感染症対策を取りながら、なおかつ、工夫して、できる限りの教育活動を実施するというので、今後ご理解ご協力をお願いします。

部活動に関しては、府の大会や近畿・全国大会につながるような大会に限って公式戦を実施する方向で動いています。その場合、練習なしで試合に臨むのは怪我に繋がり、大変危険なので、試合前の一週間に限り、1時間を限度に練習を特別に許可します。1週間の練習日数は平日4日。土日はどちらか1日を原則とします。ただ試合の日と中間テストの日が近い部活に関しては、テスト1週間前に入りますが、今回は特別に学校として練習を許可します。(ただし、練習参加は本人の希望によって選択可とします)

5月31日までの間に関しては(期間が延長になる可能性もございます)

- ・活動日は公式戦のある日の1週間前からのみ。
- ・平日も土日も活動時間は1日1時間まで。
- ・平日の活動は週4日まで。
- ・土日の活動はどちらか1日のみ。
- ・活動参加人数を絞って活動(練習や試合への参加者は、試合に参加する可能性のある人及び大会運営に必要な人に限る)
- ・合同練習・練習試合は禁止
- ・活動前後の消毒の徹底。換気の徹底。
- ・活動内容はマスクをして活動できる範囲のみ。(どうしてもはずす必要がある場合は最大10分まで)
- ・ミーティング等は最小限で、密を避ける形で。
- ・感染に不安のある人には、練習や試合への不参加を認めます。

★中間テスト1週間前であっても、公式戦がある場合は特別に練習することを認めます。(ただし、参加不参加は生徒本人の意思で決定)

- ・部活の終了時刻を17:00
- ・最終下校時刻を17:15とさせていただきます。

●★2年生 職場体験学習→校外学習(キッザニア)に関して

4月の校長だよりでもお知らせしましたが、今年度の2年生職場体験

学習は実施できません。

ただし、西中学校では、職場体験学習に変わる取り組みとして、**7月1日(木)**に、**キャリア教育につながるような校外学習(キッザニア)の実施を考えています。職業体験をできるような体験型の施設で、仕事を体験しながら働くことの大切さを学べたらと考えています。道中(バス)も含め現地でも、感染症対策を実施して取り組みたいと考えています。**

緊急事態宣言が5月末まで延長されましたので、校外学習の説明会の日を変更します。

2年生校外学習保護者説明会 5月27日(木)→6月1日(火)

※通常は、校外学習での保護者説明会は実施しませんが、今年度は、新型コロナウイルスの感染状況を考えて特別に開催します。

★西中学校の先生たちの前向きな取り組み

通常、学校で行われる取り組みに関しては、判で押したように、例年通りの行事が大半です。入学式・離任式・家庭訪問・授業参観・修学旅行・職場体験・宿泊学習・体育大会・文化祭・進路懇談・卒業式など、ほぼ同じ時期にほぼ同じ内容で行われます。この2年間は、その例年通りが大きく崩れていますが、来年以降はたぶん通常に戻ると思われます。

次に、校長が教員や生徒に投げかけて行われるものも存在します。例えば、昨年度は、「読むこと」として、みなさんの読書の記録を

残してもらいました。学級文庫を希望図書で購入してもらったりもしました。表現することとして、学校のマスコットづくりにも挑戦してもらいました。

新しい取り組みは、校長先生からの提案ばかりではありません。例えば、昨年度実施された、ユニクロとのタイアッププログラムである「服のチカラプロジェクト」（発展途上国に古着を送ろう）に関しては、先生方からの提案で出た取り組みでした。また昨年度の校則の改正も、生徒会の人たちと先生方によって企画され実行されました。3月に実施された、旧1年生・旧2年生のミニ文化祭も、生徒や先生方のアイデアから始まった取り組みです。

例年通りの行事も、校長先生からの提案も、先生方からの自発的な取り組みも、どれも大事な取り組みです。でも、中でも私が好きなのは、生徒や先生の自発的なアイデアから生まれた取り組みです。人は、「**自ら思い描いたアイデアを実施するとき！**」に、ものすごい力を発揮します。だからこそ、私は生徒のみなさんや先生方の自発的なアイデアから生まれた取り組みが大好きです。

たとえば、

1年生の先生方・・・放課後の自主学習会に取り組んでくれています。しかも、スタンプラリーの形式で、楽しみながら自主的に学べるスタイルで取り組んでくれています。15分を1単位として、自分の頑張れる時間頑張るという方式です。15分という無理なくて

きる単位を設定してくれているあたりに、**1年生の先生方の愛**を感じます。

そして、今は宿泊学習に変わるプログラムの計画に入ってくれています。**みんなが充実できるような工夫した取り組み**を考えてくれることでしょう。

2年生の先生方・・・上記にあるようなキッザニアの校外学習を計画してくれました。職場体験学習が無くなったときに、どうにかしてそれにかわる**キャリア教育**につながる取り組みができないかと考えたうえでのアイデアです。

また、今、スピーチに関する取り組みを計画してくれています。それぞれ一人一人自分が話したい内容の原稿を考え、スピーチをして、ビブリオバトルの形式で代表者を決め、学年での発表につなげる取り組みです。**原稿を考え(今年のテーマ、考えること)、スピーチを行い(去年のテーマ、表現すること)、スピーチを聞く(今年のテーマ、聞くこと)**につながるプログラムです。今からとても楽しみです。

3年生の先生方・・・修学旅行について、様々なアイデアを駆使してくれています。実は修学旅行に関しては、2度3度と計画の見直しが行われました。当初は、長崎での平和学習と歴史のフィールドワークの後、民泊を予定していました。しかし、このコロナの状況で、民泊家庭に寝泊まりすることで十分な感染対策がとれるか非常に不安に感じ、民泊は中止となりました。そこで新しく考えてくれ

た行き先に私はびっくりしました。**北九州のエコタウン**です。修学旅行先として歴史を学ぶということはよくある話ですが、学年の先生方は、「**未来を学びに行こう!**」と計画してくれていたのです。最終的にはそのプランも見直すこととなり、行き先は広島になりましたが、その選択肢を取ったのも、やはり、**被爆地広島でしっかりと学んで欲しいという思い**があったからです。平和についてしっかりと学んでほしいという学年の先生方の思いが強く伝わってきました。何度となくプランを練り直し、長い時間会議を行い、7月には改めて下見にも行く予定です。

このように、詳しい説明がないと、先生方の取り組みの深い思いが十分に伝わりません。そうすると、せっかくの企画も、何となく実施されているように感じてしまいます。一つ一つの取り組みに関する思いは、先生方からみなさんに向けられた愛です。長い時間をかけて会議をして実施にこぎつけてくれている学年の先生方の思いをしっかり受け止めて、思い出深い取り組みにしてください。

魔法のじゅうたんにのって 地中海沿岸の街

地中海（エーゲ海）に面した南フランスには素敵な街が多くあります。私はコートダジュールというイタリア寄りの海岸に沿って旅したのですが、スペイン寄りの地域にも、サンベネゼ橋で有名なアヴィニョンやゴッホが作品をたくさん描いたアルルやプロヴァンス地方最大の都市マルセイユやトゥーロンといった有名な街があります。いつか行ってみたい場所です。

私は、ニースを中心にした街並みを楽しみました。ニースから日帰りでカンヌという街までドライブしました。カンヌ映画祭で有名な街で、ニースやモナコもそうでしたが豪華なクルーザーが並ぶおしゃれな港町でした。

カンヌからニースに引き返して、今度はモナコに車で移動します。モナコまでの途中でエズという街に立ち寄る計画でした。鷹巣村といわれる断崖絶壁にある村で、私がこの旅で一番行きたかった場所でした。ところが、道に迷ってしまい、エズの街には行きつけませんでした。かわりにたどり着いたのはミニ動物園。どこをどう走ったのかわからないので、二度と行きつく自信はないのですが、私は一番行きたかったエズをあきらめて、動物園を選択しました。子連れ旅の宿命です。中に入るとびっくり、ライオンなどの猛獣が、簡単な細い金属のフェンスの中にいました。猛獣が思い切り体当たりしたら破れるのではないかと思うほどのフェンスに、恐怖心が増しました。幼稚園児だった長男は大喜び、道を間違えて行きついた動物園を楽しんでいました。そういえばこの長男は、2歳ぐらいのときに大阪の天王寺動物園に行ったときに、動物園の動物を見ずに鳩を追いかけていて、「その鳥ではなく、こっちの動物を見なさい」と言ったのを思い出しました。フランスの動物園には、ラマもいました。なぜそんな動物が印象深かったのかというと、フェンス越しにラマの前に私が立った時に、向かい合わせに立ったラマが私の顔に何と唾を吐きかけてきたのです。30センチぐらいの距離だったためによけきれず私の顔には奴のつばがもろにかかりました。後日調べてみると、ラマは怖い相手に対しては、唾を吐きかけて威嚇するとありました。よっぽど怖い顔だったようです。という具合に、フランスの動物園を楽しみました。ちなみに当時赤ちゃんだった下の息子は、大人になって、数年前に南フランスを旅行して、私が行きたかった鷹巣村エズを訪問し写真を見せてくれました。

赤ちゃん連れの旅はレンタカーが便利です。今回は、ニースの空港でレンタカーを借りました。ヨーロッパには、エイビスやハーツやバジェットなどという大手のレンタカー会社が空港や大きな駅にはあります。私が予約していたレンタカー会社には、オートマチック車が1台しかありませんでした。日本では20年前にはもうすでにオートマ車が主流でした。ところが、ヨーロッパではまだまだマニュアル車が多く、レンタカーでもマニュアル車が多かった気がします。私は免許取得以来マニュアル車を運転していないので、オートマ車が希望でした。ところがそのレンタカー会社には、オートマ車が一台しかなく、そのオートマ車はクーラーがついていなくて、窓は手動でぐるぐる開け閉めするタイプで、年式も古く傷もあちこちについていました。だいぶ迷ったのですが、安全第一ということで、泣く泣く傷だらけのオートマ車を選びました。ロールスロイスなどの高級車が走るニース・カンヌ・モナコという街を、窓を開けて走る古い車は、逆の意味で目立っていたかもしれません。

モナコというのは町ではなく国です。フランスの中にモナコ公国という独立した国家があるのです。イタリアにあるバチカンに次ぐ小さな国家です。税金面での優遇があるので、富裕層が多数ここに移住しています。世界中の億万長者が集まっていて、観光収入が国家の財源のほとんどとなっています。モナコで有名なものと言えばカジノです。残念ながら奥さんの許可が出ず、カジノの体験はできませんでした。もう一つ有名なものは、F1のモナコグランプリです。F1コースの中で唯一公道がレースの舞台となる場所です。かつて、セナやプロストやシューマッハーやマンセルやアレジといった往年の名ドライバーがしのぎを削ったそのコースを、窓を全開にした私のレンタカーが走りました。テレビで何度も見た山道を左右にヘアピンカーブしながら走り、海沿いのトンネルをくぐり、豪華な

クルーザーが並ぶヨットハーバーの横を走り抜けるコースは爽快でした。（おんぼろ車だ
けど走りは快適でした）

